

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.121 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 28.1266"
- ・経度:128° 03' 07.2147"
- ・標高(EL):3.059m
- ・標高(DL):4.222m



調査地点:No.121(波蝕棚)

撮影日時:2014.6.27 11:58



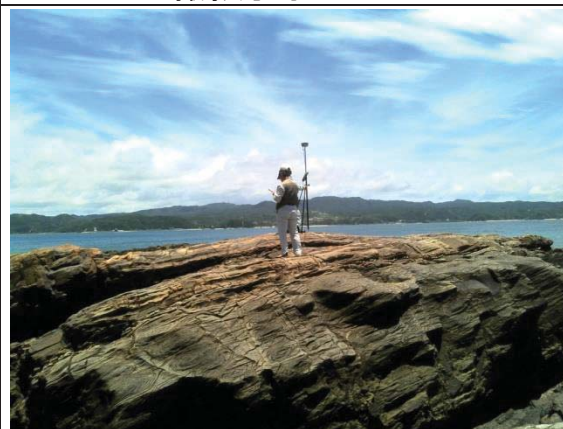
位置情報:緯度 26° 31' 28.07"  
経度 128° 03' 06.88"  
撮影方向:北東



位置情報:緯度 26° 31' 27.93"  
経度 128° 03' 07.52"  
撮影方向:北西



位置情報:緯度 26° 31' 27.86"  
経度 128° 03' 07.33"  
撮影方向:北



位置情報:緯度 26° 31' 27.83"  
経度 128° 03' 07.21"  
撮影方向:北北東

付表- 4.2.2.30(3) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No. 121)

写真

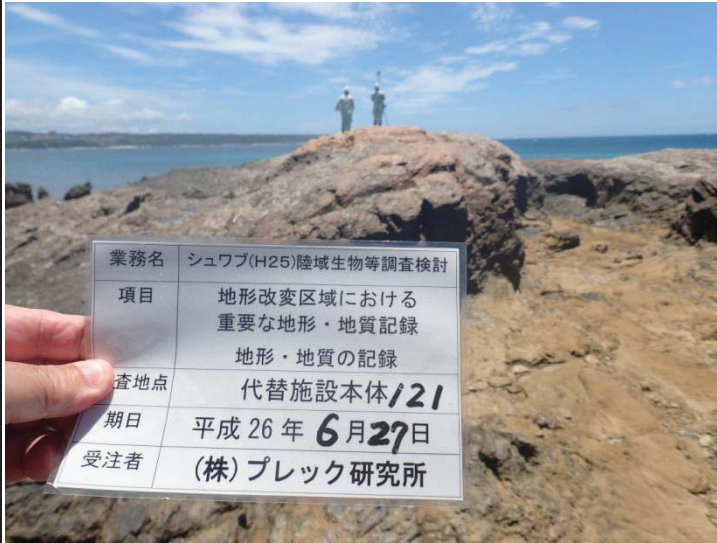


写真 (No.121①)  
No.120 の波蝕棚から  
みた No.121 の波蝕  
棚。



写真 (No.121②)  
同上。  
No.120 の波蝕棚と同  
様、表面が平滑であ  
るのが特徴である。



写真 (No.121③)  
同上。  
赤褐色味が強い。

写真



写真 (No.121④)  
波蝕棚の表面。  
平滑に浸食され、表面に模様がみられる。  
嘉陽層は付加体として形成され、その過程でかなり変成作用を受けている。一部の砂泥互層には火成岩の貫入なども考えられ、その影響で砂泥互層の中には風化の過程でオニオンストラクチャー(タマネギ状風化殻)が形成されることがある。

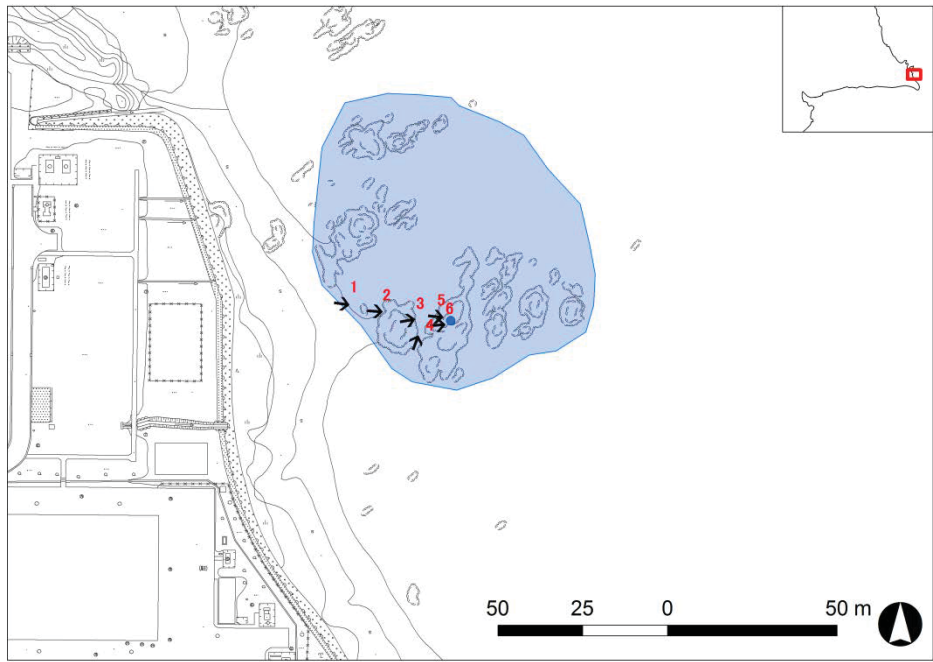


写真 (No.121⑤)  
同上。  
赤褐色のリング状の模様は、風化殻(タマネギ状構造)の横断面であると考えられる。



写真 (No.121⑥)  
同上。  
波蝕棚の表面が平滑に浸食され、周辺のゴツゴツした岩肌と対比的な違いを見せている。

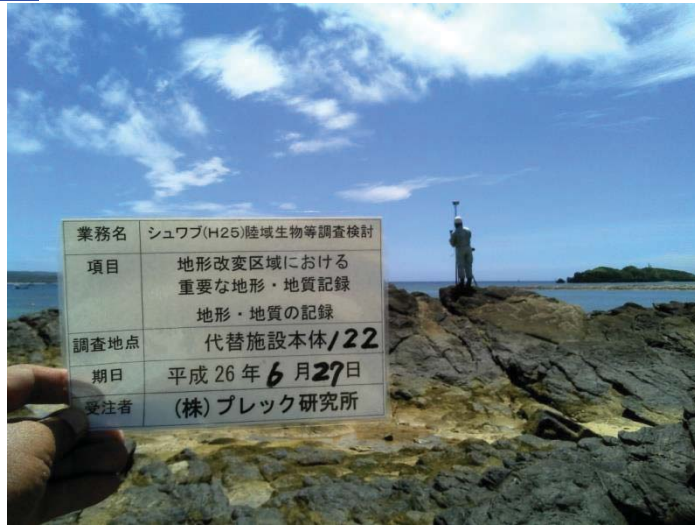
付表- 4.2.2.31(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.122)

No.	122
種類	波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	辺野古崎の北西約 300m に位置する辺野古崎北方海岸にみられる波蝕棚である。表面が平滑で赤褐色味が強い No.120 及び No.121 の波蝕棚と異なり、表面がゴツゴツして暗褐色味が強いことで対比される。
位置	 <div data-bbox="411 1211 850 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【No.122 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度:26° 31' 23.5542"</li> <li>・経度:128° 03' 07.6495"</li> <li>・標高(EL):1.778m</li> <li>・標高(DL):2.941m</li> </ul> </div>
形状・構造	海岸線の砂浜の沖合に幅約 70~80m、沖合に向かって約 60~70m の範囲に波蝕棚が広がり、比較的高い岩が海面上に出現している。表面が平滑で赤褐色気味の No.120、No.121 の海蝕棚と異なり、表面がゴツゴツしていて暗褐色を呈するのが特徴である。海岸線寄りには砂が堆積し、波蝕棚が埋まっている。
規模	海岸線に沿って幅約 70~80m、沖に向かって約 60~70m の範囲に広がっている。
その他 (保存状態)	保存状態は良好であるが、海岸線寄りには砂が堆積し、埋もれている。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.122 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 23.5542"
- ・経度:128° 03' 07.6495"
- ・標高(EL):1.778m
- ・標高(DL):2.941m



調査地点:No.122(波蝕棚)

撮影日時:2014.6.27 11:09



位置情報:緯度 26° 31' 24.07"  
経度 128° 03' 07.34"  
撮影方向:南東



位置情報:緯度 26° 31' 23.91"  
経度 128° 03' 06.93"  
撮影方向:東北東



位置情報:緯度 26° 31' 23.17"  
経度 128° 03' 07.22"  
撮影方向:西北西



位置情報:緯度 26° 31' 23.12"  
経度 128° 03' 07.79"  
撮影方向:北北西

写真



写真 (No.122①)  
表面がゴツゴツした岩肌を呈し、暗褐色味が強いのが特徴である。  
手前に砂浜が広がり、波蝕棚を隠している。



写真 (No.122②)  
同上。



写真 (No.122③)  
同上。  
右に見えるのは長島、左に遠く見えるのは安部崎と安部オール島である。

写真



写真 (No.122④)  
波蝕棚。  
暗褐色味が強いのが特徴の一つである。

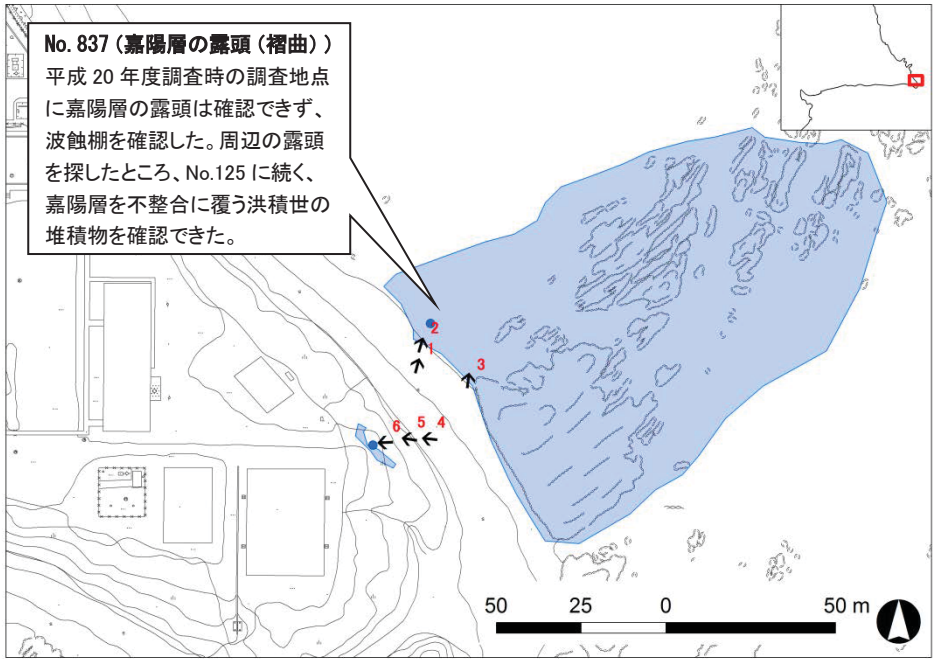


写真 (No.122⑤)  
同上。



写真 (No.122⑥)  
同上。

付表- 4.2.2.32(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 837)

No.	837
種類	嘉陽層の露頭(褶曲)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	平成 20 年調査において重要な地形・地質として嘉陽層の露頭(褶曲)が抽出されているが、この地点は海域であり、嘉陽層の波蝕棚を確認した。 また、周辺で露頭を探したところ、嘉陽層を不整合に覆う洪積世の堆積物は確認できたが、嘉陽層の褶曲は確認できなかった。
位置	 <p><b>No. 837 (嘉陽層の露頭(褶曲))</b> 平成 20 年度調査時の調査地点に嘉陽層の露頭は確認できず、波蝕棚を確認した。周辺の露頭を探したところ、No.125 に続く、嘉陽層を不整合に覆う洪積世の堆積物を確認できた。</p> <p><b>【No.837 観測点座標】</b> ・緯度:26° 31' 18.2894" ・経度:128° 03' 09.8543" ・標高(EL):-0.295m ・標高(DL):0.868m</p> <p><b>【No.837' 観測点座標】</b> ・緯度:26° 31' 17.1279" ・経度:128° 03' 09.3097" ・標高(EL):3.886m ・標高(DL):5.049m</p>
形状・構造	周辺に嘉陽層の露頭(褶曲)は確認できなかった。周辺の露頭を探したところ、No.125(不整合の露頭)に続く、嘉陽層を不整合に覆う黄赤褐色を呈する洪積世の堆積物が確認できた。この層には2~10cm大の角礫を含んでいた。なお、平成 20 年度調査時の調査地点付近は波蝕棚が分布していると考えられるが、大小の礫や砂が堆積し、波蝕棚はこれらの砂礫に埋もれていた。
規模	調査地点周辺には高さ 1~1.5m 前後、幅 150m 程度の海蝕崖がみられ、その大半は植物に被覆されている。植被が薄く、地層が露出している露頭が幅 3m 程度で確認でき、その露頭を調査した。
その他 (保存状態)	海蝕崖の大半は植物に覆われ、地層が確認できる露頭はわずかに過ぎない。



代表地点の周辺 4 方向からの写真

注)平成 20 年調査報告書に掲載している調査地点付近の状況は、ここに示すように嘉陽層の露頭ではなく、海岸の波蝕棚であった。報告書には写真が掲載されていないため、真偽が不明である。

【No.837 観測点 (波蝕棚) 座標】

- ・緯度:26° 31' 18.2894"
- ・経度:128° 03' 09.8543"
- ・標高(EL):-0.295m
- ・標高(DL):0.868m



調査地点:No.837(嘉陽層の露頭(褶曲))

撮影日時:2014.6.27 10:58



位置情報:緯度 26° 31' 18.47"  
経度 128° 03' 10.15"  
撮影方向:南



位置情報:緯度 26° 31' 18.53"  
経度 128° 03' 09.78"  
撮影方向:東南東



位置情報:緯度 26° 31' 18.22"  
経度 128° 03' 09.65"  
撮影方向:北東



位置情報:緯度 26° 31' 18.14"  
経度 128° 03' 09.90"  
撮影方向:北

代表地点の周辺4方向からの写真

注)過年度報告書ではこの調査地点は嘉陽層の露頭(褶曲)と記載されており、調査地点周辺の露頭を探した。確認できたのは嘉陽層を覆う洪積世の赤土であったが、過年度報告書に写真が掲載されていないため、詳細は不明である。No.837として位置を測量し、位置情報を得た。

【No.837 観測点(露頭)座標】

- ・緯度:26° 31' 17.1279"
- ・経度:128° 03' 09.3097"
- ・標高(EL):3.886m
- ・標高(DL):5.049m



調査地点:No.837'(嘉陽層の露頭(褶曲))

撮影日時:2014.6.27 10:49



位置情報:緯度 26° 31' 17.46"  
経度 128° 03' 09.58"  
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 17.28"  
経度 128° 03' 09.72"  
撮影方向:西



位置情報:緯度 26° 31' 17.13"  
経度 128° 03' 09.72"  
撮影方向:西



位置情報:緯度 26° 31' 17.05"  
経度 128° 03' 09.63"  
撮影方向:西南西

付表- 4.2.2.32(4) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No. 837)

写真

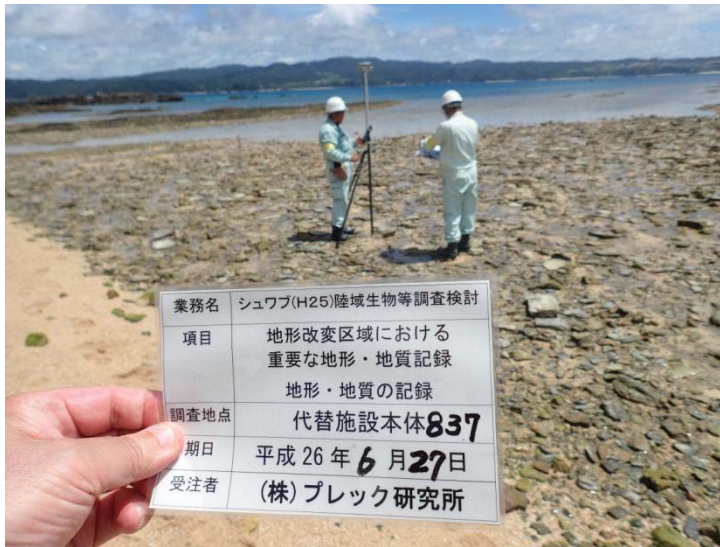


写真 (No.837①)  
辺野古崎の北方約  
100m に位置する波  
蝕棚。5~20cm 大の  
角礫や 30~50cm 大  
の大礫、粗砂に被覆  
されている。



写真 (No.837②)  
同上。



写真 (No.837③)  
波蝕棚は嘉陽層の  
砂岩・泥岩が卓越す  
る互層である。  
走向・傾斜は、  
N75E、18° (N)で、  
北向きに傾いてい  
る。

写真



写真 (No.837④)  
周辺でみられた露頭。  
高さ1~1.5m 前後の崖が続くが、大半は植生が繁茂し被覆されている。



写真 (No.837⑤)  
嘉陽層の砂岩・泥岩が卓越する互層の上に黄褐色を呈する洪積世の堆積物が不整合にこれを覆っている。



写真 (No.837⑥)  
嘉陽層を不整合に覆う洪積世の堆積物は黄褐色を呈し、2~10cm 大の角礫や珊瑚片、貝殻片に富んでいる。